

施設一覧

■本部

〒273-0005 千葉県船橋市本町 2-1-1 船橋スクエア 21 (4階) TEL : 047-420-2600 FAX : 047-420-2400

■配送センター・事業所

柏センター 〒277-0871 千葉県柏市若柴 330
松戸センター 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 273-1
千葉センター 〒266-0031 千葉県千葉市緑区おゆみ野 1-27-3
野田センター 〒278-0031 千葉県野田市中根 193
バルシステム・キューブ館山 〒294-0054 千葉県館山市湊 47-1
印西センター 〒270-1331 千葉県印西市牧の原 2-6
習志野センター 〒275-0001 千葉県習志野市東習志野 6-15-8
東金センター 〒283-0826 千葉県東金市丘山台 1-12-1
稲毛センター 〒263-0005 千葉県千葉市稲毛区長沼町 337-1

■組合員活動施設

バルひろば☆ちば 〒260-0028 千葉県千葉市中央区新町 18-10 千葉第一生命ビルディング 1F TEL : 0120-31-8686
バルひろば☆おおたかの森 〒270-0138 千葉県流山市おおたかの森東 1-3-1 プラティークヴェール 1F TEL : 0120-868-664

■店舗

のだ中根店 〒278-0031 千葉県野田市中根 193 TEL : 04-7125-5589

■夕食宅配

〒273-0005 千葉県船橋市本町 2-1-1 船橋スクエア 21 (4階) TEL : 0120-660-788

■家事支援

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 273-1 (松戸センター内) TEL : 0120-978-617

■介護事業

サービス付き高齢者向け住宅にじいろばる松戸六実 〒273-0021 千葉県松戸市六実 2-5-1

- ・デイサービスにじいろばる松戸六実
- ・訪問介護にじいろばる松戸六実
- ・居宅介護支援にじいろばる松戸六実

デイサービスにじいろばる野田音女通り 〒278-0035 千葉県野田市中野台 177-7
デイサービスにじいろばる市川里見 〒272-0827 千葉県市川市国府台 3-2-16
デイサービスにじいろばる船橋海神 〒273-0021 千葉県船橋市海神 6-2-3
訪問介護にじいろばる野田 〒278-0031 千葉県野田市中根 193
居宅介護支援にじいろばる市川 〒272-0827 千葉県市川市国府台 3-2-16 (2階)
居宅介護支援にじいろばる野田 〒278-0035 千葉県野田市中野台 177-7



組織案内 2022



pal*system
バルシステム千葉

<https://www.palsystem-chiba.coop>



生活協同組合パルシステム千葉
代表理事 理事長 佐々木 博子

協同組合は、一人ひとりの想いを寄せ合い協同の力で課題を解決していくための組織として世界中に広がっています。生活協同組合はその名前が示すように、組合員の生活に密着した事業と活動を中心に行っています。私たちパルシステム千葉は高度成長期にあった1970年代、経済発展の一方で食の安全や環境破壊に危機感を持った人々が集まり誕生しました。その想いは今も受け継がれ、食の安全に対する取り組みはもちろん環境への配慮など、人と人をつなぎながら課題解決に向けて活動を続けています。安さや便利さだけにとらわれず、商品の向こうにある作り手の想いを大切に産直交流や、消費者として「選ぶ」という行動は社会を変える原動力となり、持続可能な社会づくりに欠かせないのではないのでしょうか。

また、首都圏を中心に展開しているパルシステムグループの連帯力を活かし、幅広い社会活動も行っています。近年、大きな社会問題になっているのが格差社会や貧困層の拡大です。食に関わる立場から、フードバンクへの食材提供をはじめ、金銭面で進学を諦めないよう給付型奨学金への募金など、多くの組合員が賛同し応援しています。よりよい社会づくりのためにも今後も続けてまいります。

地域社会の一員としてパルシステム千葉の理念「心豊かな暮らしと共生の社会を創ります」の実現に向けて、これからも組合員とともに歩んでまいりますので、ご支援の程よろしくお願いたします。

パルシステム千葉の理念

心豊かな暮らしと共生の社会を創ります

心豊かな暮らし

物質的な豊かさだけではなく、心の豊かさや安らぎと暮らしの質、そして人と人の結びつきを大切な価値として求めています。

共生の社会

自然と人の共生を基本において、地域や属性を越えた人と人との共生、そして現在と未来との共生をめざし、人と人が助け合う社会を実現します。

事業・活動を通じてSDGsの実現に貢献します。



「国際産直」による地域産業支援のほか、国内の食糧提供や、貧困問題に取り組む団体への支援を行っています。



フードバンクや「子ども食堂」への支援活動、また食糧問題や食料自給率向上にも取り組んでいます。



たすけあい活動や地域市民団体の草の根活動の支援など、総合福祉政策に取り組んでいます。



組合員による食育活動や、商品学習会の開催など、学び、教えあいに取り組んでいます。



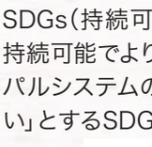
女性目線の事業と活動を行うため、女性生産者の交流活動ほか、女性支援、活躍推進に取り組んでいます。



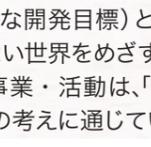
「石けん生活普及活動」により、身近な環境から水循環や生きか、女性支援、活躍推進に取り組んでいます。



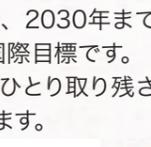
「パルシステムでんき」では、全国の「発電産地」と協力し、再生可能エネルギーの普及を進めています。



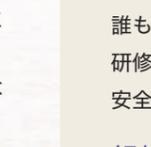
商品の生産・製造地域の経済の活性化や雇用創出を応援しています。



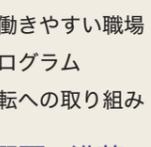
他生協と青果の共同物流体制を構築・運用するなど、インフラを補う協働の仕組みをつくっています。



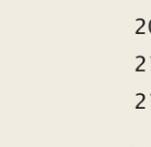
フェアトレード商品を取り扱うほか、生活困窮者への食料提供など反貧困活動への支援や連帯を深めています。



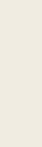
「見守り安心サービス」による地域生活サポートをはじめ、自治体と見守りや災害協定の締結を進めています。



パルシステムオリジナル商品など、人や環境に配慮した商品づくりを行っています。



3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進によって、商品の包材の削減や、トレー不使用などに挑戦しています。



産直産地とともに、「里海づくり」や「植樹活動」など、海の環境を守る取り組みを進めています。

「コア・フード」「エコ・チャレンジ」「予約登録米」の取り組みなど、産地とともに環境保全型農業を推進しています。

組合員の参画による民主的な組織運営に努めるほか、「ICAN」への加盟など、争いのない社会づくりを進めています。

「心豊かな暮らしと共生の社会づくり」の実現のため、助成金制度の運用や、被災者への応援を行っています。

パルシステムは第1回「ジャパンSDGsアワード」を受賞しました



CONTENTS

ごあいさつ	2
パルシステム千葉の理念 事業・活動とSDGs	2
Special Message	4
「食」の取り組み	6
パルシステムの商品づくり	6
パルシステムの産直	7
直営農場パルグリーンファーム	7
「環境」の取り組み	8
3Rの推進	8
石けんの利用・普及	8
エネルギー政策	9
パルシステムでんき	9
パルシステム千葉の活動	10
暮らし課題解決への取り組み	10
組合員活動	12
パルシステム千葉の事業	14
無店舗事業	14
パルシステム千葉の独自商品	15
夕食宅配事業	16
共済事業	17
店舗事業	17
介護事業	18
家事支援事業	19
パルシステム千葉の 人と組織	20
誰もが働きやすい職場	20
研修プログラム	21
安全運転への取り組み	21
組織概要・沿革	22



生活協同組合パルシステム千葉
代表理事 専務理事

新村 里志

2022年度の取り組み、 創立30周年を迎えて

2022年度はコロナ禍3年目ということ念頭に置きつつ、2030年ビジョンに向かって事業・活動を力強く推進していきます。とくに今年度は、パルシステム千葉(旧称:生活協同組合エル、1992年創立)が誕生して30周年を迎えました。さらに前身となる3生協(「柏・市民生協」「下総生協」「花見川生協」)の歴史をさかのぼると1975年前後からになります。私たちは、こうした長い歴史を引き継いでいることを忘れてはいけないと認識しています。

この30年で、人口減少、少子高齢化、高齢者単身世帯の増加等、社会構造そのものが大きく変化し、ライフスタイルも価値観も、社会的課題も多様化してきました。そして今、コロナ禍、ウクライナ情勢など世界的な課題にも直面しています。あらためて私たちパルシ

ステムの理念「心豊かなくらしと共生の社会をつくります」にこめられた意義を考えています。

30周年を機に、私たちのこれまでの歴史を振り返りつつ、現在の到達点と課題を役職員そして組合員と再確認し、2030年ビジョンの実現に向けて着実な歩みを続けてまいります。

パルシステム千葉 2030年ビジョン

つながる力とささえあいの心で
笑顔あふれる地域コミュニティをつくります
～コミュニティ生協として、くらし課題解決に取り組みます～

- ① 「組合員の想いとともに進める生協運営」
- ② 「食の安全・安心と産直」
- ③ 「ささえあいの心で創る地域コミュニティづくり」
- ④ 「明るい未来に向けた環境活動と平和活動」
- ⑤ 「組合員の声に応える事業展開・地域になくしてはならない存在に」



長い歴史を引き継いでいることを
忘れてはいけないと認識しています。

2021年度を振り返り

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で年間の約3分の2が緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の期間となるなか、前年に続きコロナ禍に対応しながら、計画していた事業・活動を一歩ずつ進めていくことができました。

組合員活動、総代活動、産直交流をはじめ環境・平和など社会的課題に関する取り組みでも、2021年度はオンラインを中心に、積極的に展開しました。長引くコロナ禍で深刻化する貧困問題に対して生活困窮者や学生へ食料支援を行ったほか、パルシステム給付型奨学金の取り組みも開始しました。また、平和活動

ではロシア政府のウクライナ軍事侵攻に抗議し、即時の戦争終結と平和の実現を訴える緊急声明を出すとともに、ウクライナへの人道支援を目的とした組合員募金の呼びかけを行いました。

事業面で特筆すべきは、パルシステムグループ初となるサービス付き高齢者向け住宅と、新たな配送センター(ともに松戸市)の開設です。また、新共同会社「(株)パルシステム・イースト」への資本参加・経営参画など新たなチャレンジも行うなか、2021年度は総事業高356.3億円、経常剰余金6.6億円の実績を残すことができました。さらにデジタル化社会への対応、ダイバーシティを重視した研修体制・職員体制の拡充など、多様化・複雑化する社会への対応に取り組んだ一年となりました。

パルシステム千葉 創立30周年



▶▶ 前身生協時代



下総生協総代会のようす



共同班のようす

▶▶ 前身3生協からの歴史

- 1975年 柏・市民生協設立
- 1976年 下総生協、花見川生協設立
- 1988年 柏・市民、下総、花見川の3生協が協同事業開始
- 1992年 **パルシステム千葉 創立**
旧称:生活協同組合エル

パルシステム千葉 (旧称:生活協同組合エル) 誕生から現在までの 組合員数





「食」の取り組み



パルシステムの商品づくり

パルシステムの商品は、単なる「モノ」ではありません。「食」と「農」をつなぎ、いのちの力があふれる社会を、次の世代にきちんと手渡したい。その想いを込めてパルシステムは、次の「7つの約束」の実現をめざして商品づくりを進めます。

7つの約束

1. 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします。
2. 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します。
3. 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追求します。
4. 化学調味料不使用で、豊かな味覚を育みます。
5. 遺伝子組換えに「NO!」と言います。
6. 厳選した素材を使い、添加物にはできるだけ頼りません。
7. 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

超えてく

パルシステムではこれまでも、「サステナブル=持続可能」な取り組みを積み重ねてきました。2022年度より新たに始まる「もっといい明日へ超えてく」では、一人ひとりがくらしの中でできることを、世界を動かすアクションに広げていきます。楽しみながら超えていった先に誰もが暮らしやすい未来が待っています。

パルシステムの「超えてく」宣言

1. 安全安心で超えてく

私や家族、そして商品づくりに関わる、すべての人と地域にとっての安全安心を実現します。

2. ジェンダーフリーで超えてく

社会や身のまわりの、思い込みや不平等を見直し、新たなくらし提案や、商品、サービスをつくりあげます。

3. 交流で超えてく

顔の見える関係を一步先に進め、誰もがワクワクする「五感と記憶に残る」交流を育みます。

4. くらし方で超えてく

「私にいいが、世界にいい」を共通の価値観に。サステナブルで、心地いい、健やかなくらしを楽しみます。

5. 協力で超えてく

多様性を認めあい、支えあい広がっていく社会へ。組合員活動を超え、社会のアクションに変えていきます。



パルシステムの産直

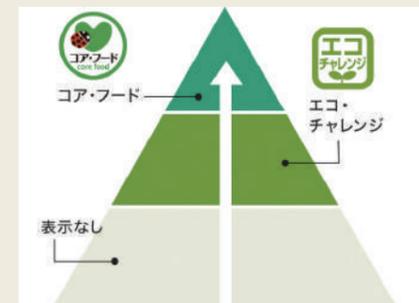
パルシステムの産直は、環境保全・資源循環を基本におき、食と農をつないで豊かな地域社会をつくることを目的としています。生産者（作る）と組合員（食べる）がともに支え合う、そのパートナーシップこそパルシステムの「産直」です。

産直 4原則

1. 生産者・産地が明らかであること
2. 生産方法や出荷基準が明らかで生産の履歴がわかること
3. 環境保全型・資源循環型農業を目指していること
4. 生産者と組合員相互の交流ができること

農業削減プログラム

パルシステムでは「農業削減プログラム」に取り組み、「コア・フード」「エコ・チャレンジ」という独自基準を設定しています。めざしているのは、人体や環境への影響が大きい化学合成農薬を避け、化学肥料の削減を通して健康な土づくりを進めることです。



コア・フード

有機 JAS 認証を取得した「有機農産物」、またはそれに準ずると判断された農産物。化学合成農薬、化学肥料を使わない、パルシステムのトップブランドです。
※有機 JAS 認証での使用可能資材を除く。

エコ・チャレンジ

化学合成農薬、化学肥料を各都道府県で定められた慣行栽培基準の1/2以下に削減。加えて、パルシステムの「削減目標農薬」の不使用を原則とします。
※青果は、除草剤、土壌くん蒸剤不使用。

表示なし

表示がないものも環境保全型農業に取り組み、可能な限り化学合成農薬、化学肥料の削減に努める産直産地の青果です。

直営農場パルグリーンファーム

2012年にパルシステム千葉が農業生産法人として立ち上げました。職員が農業者となって、野田市の遊休農地を活用し、農薬や化学肥料に頼らず、土づくりにこだわったビタミン・ミネラル分の多い野菜づくりにチャレンジしています。栽培基準は、パルシステムの「エコ・チャレンジ」以上。組合員交流や職員研修の場としても利用しています。

2022年
9月で
設立10周年





「環境」の取り組み



3Rの推進

廃棄物の発生を抑制する「リデュース（発生抑制）」、廃棄せずに繰り返し使用する「リユース（再使用）」、廃棄物を原料として再生利用する「リサイクル（再生利用）」をはじめ、環境負荷の少ない商品パッケージへの改良を進めています。

また、2016年より、使用済みのペットボトルを新たなペットボトルに再生させる“ボトル(B) to ボトル(B)”を採用した『富士の天然水 (PET)』の取り扱いを始めました。一般的に使用済み容器は食品用トレイや収納容器など別の製品に姿を変えますが、本品は再び同じペットボトルになります。石油から製造するよりも、CO₂ 排出量を大幅に削減することができます。



石けんの利用・普及

公害が深刻だった時代に「川や海を洗剤の泡で汚さないように、環境中で分解されやすい石けんを使いたい」という組合員の声から始まった石けんの利用は、パルシステムの環境活動の原点です。洗濯や食器洗い用の石けんの利用をすすめるほか、重曹や酸素系漂白剤も含め、組合員に向けて使い方の学習会を開催しています。

また、家事支援サービスでは、エアコンクリーニングやハウスクリーニングにおいて石けんを使用しています。



エネルギー政策

2011年の福島第一原発事故を受け、「減らす（省エネ）」「止める（脱原発）」「切り替える（再生エネルギーへ）」の3つを柱としたエネルギー政策を策定しました。配送センターへの太陽光パネル設置や電気自動車の導入など、さまざまな取り組みを推進しています。また、環境省の「うちエコ診断ソフト」を用いて、認定を受けた職員が診断や、簡易的に個人で診断できるWeb版の活用、推進を行うことで、一人ひとりの環境への意識啓発にもつながっています。また、受診家庭の光熱費やCO₂対策を推進することで、効果的にCO₂の排出を抑制しています。



パルシステム千葉では2012年より「フクシマを考えるフォーラム」の開催や、夏休みに「再生可能エネルギー」や「海洋プラスチックごみ問題」などの環境をテーマにした環境学習企画を開催しています。2021年度はパルシステムでんきの発電産地である飯館電力にご協力いただき、「バーチャルツアー」と題した学習会をオンラインで開催。世界のエネルギー事情、再生エネルギーの取り組みについて学びました。

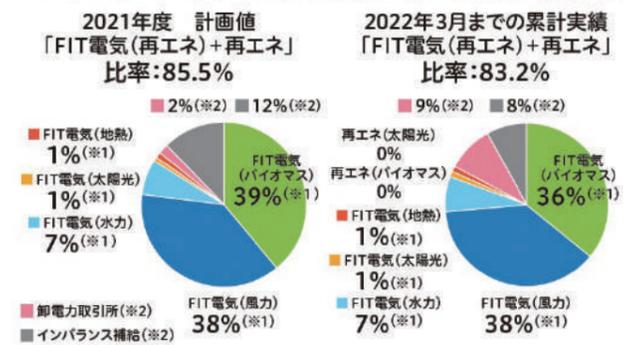


パルシステムでんき

パルシステムでんきは、畑の上に広がる空間に設置した太陽光パネルを利用した「太陽光発電（ソーラーシェアリング）」、田んぼを潤す水路の水を活用した「小水力発電」、養鶏の鶏たちから日々大量に発生するふんを燃やしてつくる「バイオマス発電」など、「再生可能エネルギー」を中心とした電気を供給しています。



パルシステム電力の電源構成



※1 この電気を調達する費用の一部は、パルシステム電力以外のお客さまも含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、CO₂が排出されないことなど再生可能エネルギーとしての価値を訴求するにあたっては、国の制度上、非化石証書の使用が必要とされています。パルシステム電力が販売する FIT電気は、CO₂排出量について火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。

※2 この電気には、水力、火力、原子力、FIT電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。再エネ(バイオマス)、再エネ(太陽光)の調達量は1%未満のため0%表記としています。

「令和2年度気候変動アクション環境大臣表彰」受賞

パルシステムの「産直」手法を活用した「顔の見える」再生可能エネルギー普及活動が、「普及・促進部門/緩和・適応分野」で受賞しました。





パルシステム千葉の活動



- 1 貧困をなくそう
- 4 質の高い教育をみんなに
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

くらし課題解決への取り組み

生活困窮者支援

フードドライブの取り組み

2016年より「フードバンクちば」と連携し、組合員宅に眠っている食品を回収するフードドライブの取り組みがスタートしました。2017年からは対象を県内配送エリア全域に広げ、2022年にはフードドライブBOXを「のだ中根店」に通年で設置しています。

配送時に回収または店舗へお寄せいただいた食品の仕分け作業には組合員もボランティアで参加し、県内のフードバンク（フードバンクちば、NPO法人フードバンクふなばし、とうかつ草の根フードバンク）を通じて生活困窮者、養護施設、子ども食堂などの支援に活用されています。

子ども食堂への協力

地域にある一部の子ども食堂へ、パルシステムの産直産地やパルグリーンファーム（株）、（株）パル・ミートの野菜や肉類を提供するなど、貧困や孤食問題に



し、地域の一員として支援しています。

子ども・若者未来基金

児童養護施設や里親家庭に暮らす社会的養護下の子どもの自立支援を目的に「子ども・若者未来基金」を「認定NPO法人ちばこどもおうえんだん」^(※)や県内の3生協とともに2017年に設立し、カンパや学習会を実施するなど、支援に取り組んでいます。

※認定NPO法人ちばこどもおうえんだん

社会的養護の必要な子どもの自立等を目的に設立。2015年7月より千葉市里親制度推進事業を受託、千葉県内3生協や労働福祉団体が参画し、社会的養護下で育った子どもの自立に必要な支援事業を行っています。

パルシステム給付型奨学金

家庭環境や経済的な理由で大学への進学や就学の継続が困難になっている若者を対象に、組合員の皆さんからの募金で支える「パルシステム給付型奨学金制度」をパルシステムグループで創設。貸与型ではなく、返済不要の給付型で、奨学生と伴走者をサポートします。



地域連携

パルシステム千葉コミュニティ活動助成基金

千葉県内で地域のさまざまなくらし課題解決に取り組んでいる団体や、今後活動を立ち上げようとしている方々を資金面で支援するために、「パルシステム千葉コミュニティ活動助成基金」を2001年度に設置しました。

22年間で助成金額の総額は63,228,437円、交付団体数はのべ273団体となりました（2022年度現在）。

※パルシステム千葉は、パルシステム千葉コミュニティ活動助成基金の事務局を、特定非営利活動法人NPO支援センターちばに業務委託しています。

高齢者の見守り

県内の配送エリアである52行政区の自治体と「高齢者見守り協定」を結び、配達時において異変を感じた際に、市の窓口と連携する役割を担っています。また、千葉県が行う「ちばSSK（しない・させない・孤立化）プロジェクト」にも参加しているほか、離れて暮らす家族に配達時の状況などを知らせる「見守り安心サービス」も実施しています。



地域支援

災害協定

各自治体や企業などと災害時における生活物資の供給等に関する協定を結んでいます（船橋市・野田市・柏市・流山市・松戸市。千葉県とは千葉県生協連を通じて締結）。災害発生時は、協定に基づき自治体からの要請に対して救援物資調達や物資搬送を行います。また、有事に備え、船橋市と防災MCA無線機器設置のほか、9都県市で開催される合同防災訓練などにも参加しています。

被災地復興支援

東日本大震災発生時には、組合員とともに被災地や被災した生産者への募金活動に取り組みました。また、多くの職員が被災地での復興支援活動にボランティアとして参加。共済給付のための訪問活動も実施しました。2011年より組合員募金を原資に福島県の組合員親子を千葉県に招待する保養プログラムを実施。2019年度には対象を広げ福島第一原発事故による自主避難者などを対象にした保養プログラムを実施しました。

2019年の台風15号および19号の際に災害に遭われた組合員を対象に、お見舞メッセージとフリーズドライブ5,500名分の配布を行ったほか、フードバンクちばを通して南房総市へ食材提供、千葉県ボランティアセンターへ飲料・お菓子の支援物資を行いました。また、館山市からの要請を受けて、被災した学校給食センターへ給食用食品を無償提供しました。



福島保養プログラム（2019年度実施時）



炊き出しの様子（南房総市）



2019年台風15号義援金贈呈（千葉市）

平和活動

明るい平和な社会を次世代につなげていくために、パルシステム千葉では「反戦」「反貧困」「国際交流」を中心に行動方針を掲げ、組合員親子や役員を対象とした「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」への参加や沖縄・館山の戦跡めぐり、平和に関する学習会などを行っています。

また、ロシア政府のウクライナ軍事侵攻に抗議し、即時の戦争終結と平和の実現を訴える緊急声明を出しました。3月から4月にかけてウクライナ市民への人道支援を目的とした募金活動にパルシステムグループ全体で取り組み、現地の支援団体に寄付しました。



組合員活動

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部の活動におきまして運用の変更、見合わせをしております。

地域活動施設「パルひろば」

組合員や地域の皆さんの活動や取り組みをサポートするための拠点として、千葉市と流山市に開設。会議や上映会、調理実習に使える「キッチン会議室」のほか絵本やおもちゃ、専用トイレ、オムツ交換台などを備えた「キッズスペース」などがあり、幅広い世代の方々にさまざまなシーンで活用いただいています。



パルシステムのつどい

「食」「暮らし」「環境」「子育て」等をテーマに、毎月さまざまな行事を開催しています。組合員だけでなく、地域の方々にも幅広くご参加いただいています。

2020年度からはオンラインでの開催も始まり、遠方にお住まいの方も、より参加しやすくなりました。



子育て支援

「子育てフェスタ」など、県内各地で子育て中の親子を対象としたイベントを多数企画しています。未就園児の親子を対象に、参加費無料、入退場自由の交流の場「あそびの広場」も実施しています。毎回ミニプログラムを用意し、地域の子育て支援を行っています。

また、子育て中の組合員が企画に参加しやすいように、保育付き行事も開催しています。さらに、千葉県が進めている「子育て応援! チーパス事業」に参加し、パルシステム千葉が主催する保育付き行事の保育料がチーパス提示で300円引き(500円→200円)になります。



あそびの
広場



(オンライン)



子育て
フェスタ

(2019年開催時)

サポーター活動

パルシステム千葉の活動は組合員による多くの「サポーター」に支えられています。産直交流やイベントの企画・運営サポート、広報活動のサポート、商品づくりなど、さまざまな行事・活動を組合員とともに作りあげています。

センターサポーター

各センターで主催する「パルシステムのつどい」の企画づくりや運営サポートのほか、センターのコミュニティ連絡会議に参加して地域の活動をいっしょにすすめます。

パルママサポーター

「子育てフェスタ」など親子向けイベントの企画・実施、カタログyumyum For Baby & Kidsの制作協力をしています。

サポーター活動の一例

産直サポーター

産地や消費地で開催する産直交流やオンライン交流をサポートする活動です。活動を通して産直への理解を深め、いっしょに【パルシステムの産直】を伝えます。

商品伝えるサポーター

組合員開発商品を中心に、パルシステムの商品やサービスを伝える活動をしています。「パルシステムのつどい」など、さまざまなイベントで組合員から組合員へ伝えます。

自主的活動グループ

組合員の自主的・自発的なグループ活動を応援し、地域や暮らしの充実を支援する制度。組合員1人を発起人とし、3名以上でグループ登録が可能。登録したグループに対し、広報や施設の利用、活動補助費などの支援をしています。





パルシステム千葉の事業



- 1 貧困をなくそう
- 2 健康をせよ
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 15 陸の豊かさも守ろう

無店舗事業

宅配事業

週に1回決まった曜日に個人・グループ利用の組合員のご自宅などへ、国産・産直・環境にこだわった安全・安心な食材をお届けしています。ご利用はライフスタイルに合わせて選べるメインカタログのほか、赤ちゃんとの暮らし、アレルギー、介護、ペットをテーマとした、登録制のオプションカタログもご用意しています。インターネットからのご加入やご注文、アプリからのご注文など、暮らしに合ったご利用方法をお選びいただけます。



法人利用

子育て支援、地域づくりを拡充し、法人向けの食材宅配サービスも展開しています。幼稚園、保育園、学童や医療施設などにお届けしています。



パルシステム千葉の独自商品

パルシステム千葉では、千葉の組合員を対象とした独自の商品企画を展開しています。千葉県内の地産地消商品のほか、県内産地の生産者と協力して商品を取り扱っています。

パルズダイニング (Pal's Dining)

パルシステム千葉の組合員だけに配付されるカタログ。千葉県内の地産地消商品や全国各地の名産品など、こだわりの品々を掲載しています。



紅はるかの干し芋
いっぶく堂のはるかさん (佐原)



勝浦港水揚げ
一本釣りがつおたたき

予約登録米 エコ・千葉こしひかり

予約登録米は、田植え時期に組合員が予約登録した米を定期的に届ける仕組みです。気候変動など、不測の事態が発生しても優先的にお届けします。1年分を予約することで、生産者の計画的な米作りを支え、環境保全型農業の応援にもつながります。「作る」「食べる」の双方が安心できる制度です。



エコ・千葉こしひかり

エコ・千葉こしひかりは、パルシステム千葉の組合員だけが予約登録できます。予約登録をした組合員限定の稲刈り企画も開催しています。



パルシステム千葉のこめ豚

パルシステム千葉では、資源循環型農業をめざし、耕作と畜産の連携「耕畜連携」に取り組んでいます。「パルシステム千葉のこめ豚」は千葉県の休耕田を復活させてお米を作り、そのお米を飼料にして千葉県で育った豚の冷凍肉を定期的にお届けする予約登録商品です。県内の産直産地と共同開発して実現した、まさに「地産地消」の代表商品です。



夕食宅配事業

だしと調味料にこだわった当日製造のお弁当「うちの晩ごはん」を配達料無料でお届けしています。また、商品のお届けと同時に一人暮らしの高齢者などの見守りも担っています。

利用日数は週ごとに変更可能（週3日コースもしくは週5日コース）。メニューは「こだわり御膳」のほか、「ごはん付きタイプ」「おかずタイプ」の3種類。ごはんは千葉県産こしひかりを使用しています。ボリューム弁当、サラダなどのサイドメニューも揃えています。



うちの晩ごはん



（こだわり御膳）

多彩なメニューが自慢のお弁当です。野菜たっぷり、だしや調味料にもこだわり、素材本来の味をお楽しみいただけます。



（ごはん付きタイプ）

5種のおかずとごはん付きのお弁当です。ごはんは食味に優れた、千葉県産こしひかりを使用しています。



（おかずタイプ）

6種のおかずを、彩りと栄養バランスよく盛り付けたお弁当です。だしのうまみで塩分を抑えつつ、素材本来のうまみを引き出しています。

ヘルスケアおかずセット（低糖質・減塩）スタート！

組合員の声に応えて

多くの皆さまからご要望をいただき、2021年10月より「低糖質」「減塩」に配慮した「ヘルスケアおかずセット」のお届けを開始しました。「ヘルスケアおかずセット」は、管理栄養士監修の、栄養バランスのとれた主菜と副菜あわせて5品のおかずセットです。

低糖質
おかず
セット

糖質を
10.0g以下にした
セット



減塩
おかず
セット

食塩相当量を
2.0g以下にした
セット



※日清医療食品株式会社が提供する「食宅便」から、選り抜いたパルシステム千葉限定のセットをお届けしています。
※ヤマト運輸株式会社「クール宅急便（冷凍）」でお届けします。
※「うちの晩ごはん」との併用利用もできます（一部エリア外あり）。

共済事業

CO・OP 共済《たすけあい》は、「組合員どうしが困った時に助け合いたい」という想いから生まれた商品です。入院・手術・ケガなどを手頃な掛金で幅広くサポートします。また、生命保障に入院やがんの保障をプラスできる《あいぶらす》、一生涯つづく保障の《ずっとあい》など、組合員の暮らしへのお役立ちを目的とした事業です。

ライフプランニング活動

組合員のさまざまな暮らしの課題を解決するお手伝いとして、ライフプランの作成や家計・保障などのお金の学習会や講座を開催しています。ファイナンシャル・プランナーの資格を持った組合員（LPA＝ライフ・プラン・アドバイザー）が講師となり、暮らしに役立つ知識や方法を組合員に広めています。



CO・OP 共済 2021 年度 JCSI（日本版顧客満足度指数）第3回調査結果発表、生命保険部門にて顧客満足度第1位の評価をいただきました。

店舗事業

地場野菜や地産地消商品、直営農場パルグリーンファームやパルシステム産地の青果、パルシステム PB（プライベートブランド）商品など、こだわりの商品を数多く取り揃えています。幅広い世代の方のニーズにお応えして、店内には100円ショップも設置しています。

また、野田市との協働事業で移動販売車「まごころ便」を運行しています。生鮮食品や惣菜を専用車両に積み、野田市内の買い物困難地域を巡回販売しています。店舗で買い物した商品や電話でご注文いただいた商品をご自宅までお届けするサービス「まごころ宅配便」もあります。

移動販売車
まごころ便



介護事業

「生協10の基本ケア」を推進し、介護者を含む社会的な人間関係づくりと、本人の能力を引き出す介護技術「生活リハビリ」を中心とした介護サービスを提供しています。市川市・野田市・松戸市・船橋市に拠点を置き、デイサービス、訪問介護事業、居宅介護事業を展開。さらに2021年8月、松戸市にサービス付き高齢者向け住宅を開設し、地域で求められる介護の提供をめざしています。



生協10の基本ケア

1. 換気をする

病気予防の基本として、換気を行います。新鮮な空気を取り入れ、衛生的な環境を守り、感染症を予防します。

2. 床に足をつけて座る

日常生活がリハビリという考えの下、足を使って立ち上がる習慣を身につける中で、トイレやお食事など自分でできることを増やします。

3. トイレに座る

トイレでの排泄は人間が守るべき尊厳の基本と考えます。布パンツでの暮らしをサポートします。

4. あたたかい食事をする

ご自身で調理したり盛りつけたり、親しい方と楽しく食べることで社会性を保ちます。誤嚥防止のために、食事前には口の体操も行います。

5. 家庭浴に入る

湯船にゆったりつかる習慣は日本の素晴らしい文化です。生活リハビリの効果を生かして家庭浴への入浴を大切にしています。



6. 座って会話をする

安心感を与えられるように座って会話をします。共に時間を過ごし、日々の見守りを行います。

7. 町内におでかけをする

慣れ親しんだ地域に出かけることは社会性や精神的な豊かさを保つために大切なことです。これまでの生活リズムを維持できるようにします。

8. 夢中になれることをする

自分らしく、好きなことに夢中になれる機会や、居場所づくりに取り組みます。



9. ケア会議をする

自分の街で住み続けられるように、社会性と暮らしを守るケアプランをつくります。職員はチームでケアに取り組み、ご家族を含めサポートします。

10. ターミナルケアをする

元気な時から人生の最期まで、地域との連携でご自宅でのターミナルケアをサポートします。



サービス付き高齢者向け住宅 「にじいろる松戸六実」

2021年8月、千葉県松戸市にサービス付き高齢者向け住宅「にじいろる松戸六実」を開設しました。訪問介護、デイサービス、居宅介護支援事業所を併設し、要介護の方も安心して暮らせる住まいです。パルシステムのお米や季節の食材を使い、栄養バランスに配慮した食事で「食べる楽しみ」と健康を支えます。交流スペースでは季節毎の行事やイベントを行っており、地域社会とつながりを感じながら毎日をお過ごしいただけます。



家事支援事業

組合員の暮らしを守り、支える。それがパルシステム千葉の目標です。組合員一人ひとり異なる「暮らしの課題」。日々の家事、付き添い、身の回りのちょっとしたことを誠心誠意込めてお手伝いしています。

家事代行

掃除や洗濯、片付け、料理など、日々の家事をお手伝いするほか、お子さまの送迎や見守り、ペットの世話（補助）なども承ります。定期コースやスポットコース等があり、ご要望や状況に合わせた利用ができます。



ハウスクリーニング

換気扇や浴室の汚れなど日常の掃除では落としづらい汚れを専門スタッフが掃除します。石けんを使用しているので刺激臭がせず、赤ちゃんやペットのいるご家庭にも安心です。



「排水管クリーニング」と「庭木の剪定・伐採」を 組合員の声に応えて 2021年10月よりスタート!



排水管クリーニング

キッチンや換気扇、浴室のハウスクリーニングをご利用の方を中心に、多数のご要望をいただいていた「排水管クリーニング」を始めました。「排水口から異臭がする」「水の流れが良くない」等の水回りのお悩みを解決します。

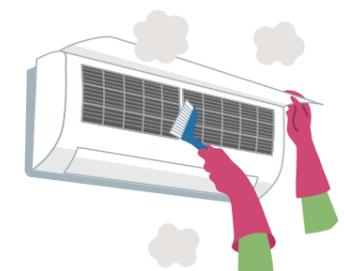


庭木の剪定・伐採

「伸びすぎた枝や庭木の手入れをしてほしい」「高いところの作業ができなくなってしまった」等の声に応えるため、「庭木の剪定・伐採」を始めました。伸びすぎた植木の剪定や枝下ろし、垣根の刈り込み、不要になった木の伐木等を承ります。

その他の 家事支援 サービス

- ・整理収納サービス
- ・エアコンクリーニング
- ・襖・障子・網戸・畳の貼り替えサービス
- ・お墓のおそうじ代行サービス





誰もが働きやすい職場

子育てサポート企業

厚生労働省の定める次世代育成支援対策推進法^(※1)に基づき、仕事と子育ての両立を図るための雇用環境整備を進めています。子育て支援に積極的に取り組む企業として、2020年には5回目の「くるみん認定」を受けました。

※1 少子化対策の一環として、次の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ、かつ育成される社会の環境整備を行うことを目的とした法律です。



フレンドリーオフィス・障がい者雇用・ユニバーサル就労

障がいのある人の雇用に対する理解と促進を図るため、パルシステム千葉は障がいのある人を積極的に雇用し、障がいのある人もない人もともに働いている事業所「笑顔いっぱい！フレンドリーオフィス」として、千葉県より認定されています。また、パルシステム千葉では誰もが働きやすい職場づくりのため、「障がい者雇用」「ユニバーサル就労」を推進し、ジョブコーチ^(※2)とともに取り組んでいます。

2022年度は各事業所にジョブサポーター^(※3)の配置をめざしており、よりきめ細かいサポートが行えるように準備を進めています。

※2 ジョブコーチ：障がいのある方が就労するにあたり、職場定着して長く働けるように支援する業務を担います

※3 ジョブサポーター：障がいのある方が働く職場で直接的な支援を行います

働きやすい環境整備

パルシステム千葉では在宅勤務制度を導入し、一部の事業所では敷地内に託児できる環境を整えるなど、安心して働ける職場づくりに努めています。また、働き方改革については中長期的計画を立て、すべての職員が長く働き続けられる組織づくりをめざしています。

2021年10月に新設した松戸市の配送センターでは、エレベーターや多目的トイレを設置し、事務所は基本的に引き戸とするなど、バリアフリーに配慮しています。また、食堂や畳スペースを設けた休憩スペースのほかバルコニーもあり、働きやすい環境を整えました。



研修プログラム

パルカレッジ

パルシステムグループでは、2015年より独自の研修制度「パルカレッジ」をスタートしました。職能に応じたさまざまな座学研修・通信教育などで必要な科目を受講できます。

新入協者研修

入協前、内定者の段階から産地見学などの研修を行います。入協後は、挨拶や身だしなみなどの基本的なビジネスマナー、パルシステムの事業や活動、商品について学びます。また、安全運転の実地研修も行います。

産地研修

パルシステム千葉で働くすべての職員が産地を訪れ、生産者の想いや商品について語れるようにと、産地研修を続けてきました。

また、パルシステム千葉の職員全員が「直営農場パルグリーンファーム」の生産者の一人という意識を持ち、定期的に農作業に関わっています。



安全運転への取り組み

安全運転推進体制

地域に住む皆さんが安心して暮らせる社会を実現するために、すべての事業において安全運転を最優先に取り組み、職員の安全運転への意識と技術向上をめざした研修を毎年実施しています。

また、各事業所の管理者を含むメンバーで安全運転推進委員会を構成しています。さらに、事業所の管理者を中心とした安全運転指導員を配置し、現場での安全運転を推進しています。

現場での取り組み

車両管理機器（ドライブレコーダー等）を設置し、注意すべき状況や挙動は指導員に通知されるようになっています。その映像は個別指導や「危険予知教育」に活用しています。

事故の再発防止の対策として、各事業所の安全運転指導員による同業指導なども行っています。さらに、事故事例を共有し、実際に起きた事故を実車で再現して意見交換を行います。



教習所での実地研修



ドライブレコーダーの映像確認

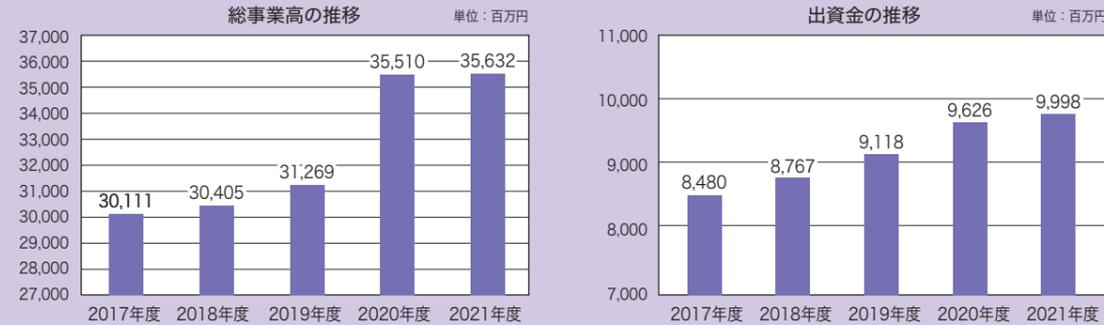
名称 ● 生活協同組合 パルシステム千葉
 設立 ● 1976年10月
 役員 ● 代表理事 理事長 佐々木 博子
 代表理事 専務理事 新村 里志
 常務理事 平 健三

事業エリア ● 千葉県(一部地域を除く)
 総事業高 ● 356億
 職員数 ● 829人(定時職員含む)

2021年度末現在

DATA FILE

事業状況・業績の推移



貸借対照表

2022年3月31日現在

(単位: 百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	12,637	【流動負債】	3,870
現金預金	8,321	買掛金	2,491
供給未収金	2,624	未払費用	732
その他	1,690	その他	646
【固定資産】	8,042	【固定負債】	962
《有形固定資産》	3,792	退職給付引当金	785
《無形固定資産》	34	その他	177
《その他固定資産》	4,214	負債合計	4,833
		(純資産の部)	
		【組合員資本】	15,867
		出資金	9,998
		剰余金	5,868
		《法定準備金》	4,100
		《福祉事業積立金》	3
		《任意積立金》	260
		《当期末処分剰余金》	1,504
		(うち当期剰余金)	(501)
		【評価・換算差額等】	1
		純資産合計	15,868
資産合計	20,701	負債・純資産合計	20,701

損益計算書

自 2021年4月1日
 至 2022年3月31日

(単位: 百万円)

科目	金額
総事業高	35,632
供給事業	
供給高	34,514
供給原価	26,286
供給剰余金	8,228
福祉事業	
福祉事業収入	168
福祉事業費用	285
福祉剰余金	△ 116
利用事業	
利用事業収入	38
利用剰余金	38
その他事業収入	911
事業総剰余金	9,061
事業経費	
人件費	2,134
物件費	4,217
分担費	2,117
事業剰余金	592
事業外収益	80
事業外費用	4
経常剰余金	668
特別損失	20
税引前当期剰余金	648
法人税等調整額	147
当期剰余金	501
当期首繰越剰余金	93
会計上の変更による影響額	5
積立金取崩	904
当期末処分剰余金	1,504

沿革

- 1947 「野田醤油生協」設立
- 1975 「柏市民生協」設立
- 1976 「下総生協」「花見川生協」設立
- 1988 「柏・市民生協」「下総生協」「花見川生協」の3生協で共同事業開始
- 1990 「生活協同組合連合会首都圏コープ事業連合」へ4生協が加入
- 1992 「柏・市民生協」「下総生協」「花見川生協」の3生協が組織合同し「生活協同組合エル」が誕生
- 1993 「野田醤油生協」から「コープのだ生協」へ名称変更
- 1994 個人宅配事業開始
- 1996 日本生活協同組合連合会より「優良生協」として表彰される
- 1998 第2次中期計画「エルビジョン21」策定
- 2000 福祉事業子会社「ケア・アクシス」設立
- 2001 第3次中期計画策定
- 2002 「生活協同組合エル」と「コープのだ生協」が組織合同
- 2004 第4次中期計画策定
- 2005 「生活協同組合首都圏コープ事業連合」が「パルシステム生活協同組合連合会」へ名称変更
- 2007 「生活協同組合エル」から「生活協同組合パルシステム千葉」へ名称変更
- 2008 第5次中期計画策定
- 2011 第6次中期計画策定、2020ビジョン策定、新理念制定、「夕食宅配事業」開始
- 2012 パルグリーンファーム株式会社設立
- 2013 移動販売車「まごころ便」開始
- 2014 第7次中期3ヵ年計画策定
- 2016 「家事支援」開始
- 2017 「Pal's Dining (パルズダイニング)」開始、「電力小売事業」開始、第8次中期3ヵ年計画策定、地域活動施設「パルひろば☆ちば」開所
- 2018 介護事業を福祉事業子会社「ケア・アクシス」より事業譲受
- 2019 地域活動施設「パルひろば☆おたかの森」開所
- 2020 2030年ビジョン策定
- 2021 サービス付き高齢者向け住宅「にじいろばる松戸六実」開所

パルシステムとは

首都圏を中心とした1都12県で活動する地域生協とパルシステム共済生活協同組合連合会、およびその他の会員生協^(※)が構成するグループです。

安全・安心な食材や生活用品をご自宅までお届けする供給事業を中心に展開するほか、組合員や地域の人々と協力して、暮らしの中で生じるさまざまな課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざしています。

※その他の会員生協
 埼玉県勤労者生活協同組合、生活協同組合あいコープみやぎ

